



理事長より

クリニックの運営上に関する事で、お困りの点や疑問点がありましたら、いつでもお気軽に理事長までお電話ください。

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は皆様には大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。また今年もよろしくお願い申し上げます。

さて日本は、1970年高齢者人口が7%を超えて高齢化社会となり、1994年14%を超えて高齢社会。さらに2007年には21%を超えて超高齢社会に突入しております。統計によると2035年には36%、2067年には42%に達すると予想されています。このように日本の高齢化はかつてないスピードで今後約60年間進展するとのことです。

しかし高齢化の進展だけが高齢者の問題ではありません。さらに独居の高齢者の増加や地域間や世代間格差の広がりなどがさらに問題を複雑化していきます。

私たちは医療を通じて高齢社会における諸問題の解決を目指すわけですが、すべて対応できるわけではありません。だからこそ連携が必須になるのです。24時間365日の安心を保健・医療・福祉が一体となって支えていく必要があると信じています。



私たち医療法人社団 三育会もその名のとおりに、保健・医療・福祉の3者が一体となってよりよい高齢社会を育てるために設立されました。これから60年近く続く日本の超高齢社会において、責任もって高齢者を支えようとする関係諸機関の皆様と一緒に努力してまいりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

はなぶさひろお

理事長 英 裕雄

銀座ヒロクリニック院長より

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

みなさまの温かいご支援により、開院から半年が経過致しました。少しずつ訪問範囲も広がり、日々診療が出来ることに幸せを感じております。

さて、今回のコラムは新年の抱負の意味も込めまして、私の尊敬するマザー・テレサの御言葉を紹介したいと思います。

「どんな小さいことであっても、大いなる愛を込めておこなうことは、人に喜びを与えます。そして人の心に平和をもたらします。何をやるかが問題ではなく、どれほどの愛をそこへ注ぎ込むことができるか・・・、それが重要なのです。」



我々の出来ることは多くはないかもしれませんが、『愛のある診療』をテーマに、より良い医療を提供できるように精進して参りますので、今年も宜しくお願い申し上げます。

銀座ヒロクリニック 院長 椎井 徹

いいい とおる

住み慣れた我が家でやりたいことは？

ちょうど1年ほど前の寒い冬の日にAさんは退院しました。

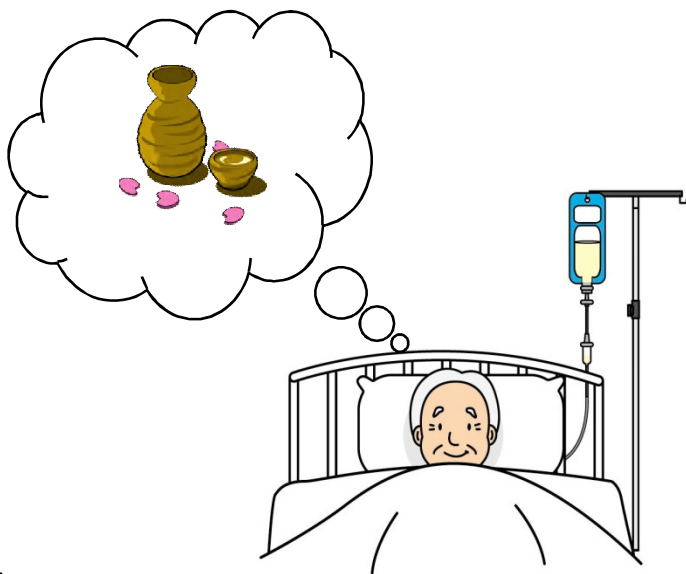
最初の診察のときに、私はいつものように「退院おめでとうございます。おうちに帰ってきてどんな療養を送りたいですか？」と尋ねたところ、

「こんな寒い日には、熱燗でいっぱいやりたいなあ…。」

胃の病気で食事をほとんど食べることができないため、入院中に24時間持続の太い点滴を首から入れて帰ってきたその体は、口から水分をとろうとするとむせてしまう状態でした。病院でなら即答で「できません」といわれるような事かもしれませんが、私たちの答えは、「無理なくお酒が飲める方法を一緒に考えましょう」でした。

Aさんの退院したら一杯やりたいという思いは強く、「これで何かあっても、酒呑みの本望だ」と、最初は呆れ顔だった家族の方をも説得して、飲酒大作戦は開始されました。

最初は、ごくごく少量ずつそのまま飲んでもらいましたが、やはりむせてしまい楽しむどころではありません。次にむせにくいように日本酒（ぬる燗）を、ゼリーのようにとろみをつけてスプーンで飲んでみました。これは、飲むというよりは食べる感じになってしまう上に、とろみのせいでお酒の味が全く変わってしまい、「最悪」との評価でした。



最終的には、熱燗というところには我慢してもらい、キンキンに冷やした水割りを含ませた歯磨き用スポンジで口の中を刺激して、むせにくくしながら水割りを吸ってもらおうというところに落ち着きました。むせてしまったときのために吸引器を準備して、さらに飲むときには医師、もしくは看護師が同席という条件の下で、Aさんは訪問のたびにおいしそうに水割りを吸い、満面の笑みを浮かべていました。

その後、Aさんは何度か肺炎を繰り返しましたが、驚異的な回復力で復活して、そのたびに祝杯をあげました。病院の先生から告げられた余命より数ヶ月も長く療養を続け、もう一つのご本人の希望だったおうちの窓から見える桜を眺めることもでき、その桜が散る頃に静かに旅立たれました。



私たちは医療者であるため、病気を診ることが仕事です。しかし、ただ病気を診るだけでは十分ではないと思っています。“在宅”という“病院”とは異なるフィールドで診療するにあたって、ご自宅で過ごされる患者さんひとりひとりに合わせて、治療と生活のバランスをとりながら療養環境をコーディネートすることが大事な仕事だと考えています。お体の調子や療養の環境によっては、このときのAさんの様にやりたい事をすべての人が叶えられるわけではないでしょう。でも、とても無理だろうと心にしまっておくだけでは、何も変わりません。まずは訪問してくる医師や看護師に伝えてみましょう。家族のかたや診療・介護スタッフと相談することで、生活がより充実し、より良い療養が送れるように。

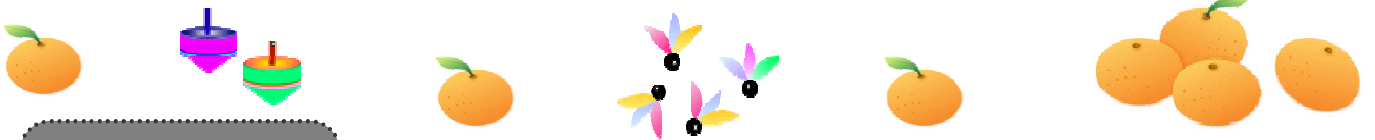
医師 中村 幸伸 なかむら ゆきのぶ

リハビリだより

新年あけましておめでとうございます。
新宿ヒロクリニックの訪問リハビリも元気にスタートいたしました。バイクに乗って颯爽と元気をお届けするヒロクリニックのリハビリ、皆様はご存知でしょうか。私たちは皆様が自分らしい人生を送るお手伝いをするスタッフです。体力の低下を防ぎたい、体の痛みをとりたい、お風呂に入りたい、歩きたい、旅行に出かけたいなど様々な希望のお手伝いをいたします。体のこと生活のこと、お困りごとがありましたらどうぞご相談ください。男性1名、女性3名のスタッフがお伺いいたします。



理学療法士 豊原 亮子



MSWコラム

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、患者様・ご家族様をはじめ、各関係機関のスタッフの方々には、大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

2009年がはじまりました。お正月は皆様どのように過ごしましたか？

私は、長野県の実家に帰り、年末は紅白歌合戦を見て年越し蕎麦を食べたり、正月は家族や友人と初詣に行ったり、駅伝ファンとしては見逃せない箱根駅伝を見たりとゆっくり過ごすことができました。

ところで、皆様お雑煮は召し上がりましたか？各地で味付けや具材、餅の形等様々ですが、雑煮の歴史は古く、室町時代頃にはすでに食されていたようです。

雑煮を食べなければ夏がはじまらなかったという習わしをもとに、一年の始まりである元日に雑煮を食べるようになったとか・・・ちなみに、我が家では、母親が東北地方出身のため、山菜や鶏肉を使った醤油味の、どことなく「きりたんぼ鍋」に煮ている味付けです。

さて、ここからは仕事の内容に切り替えて・・・

前号では、当院でのMSWの仕事について簡単にお話しましたが、その中でもとくに「新規患者様の相談窓口」としての役割が大きな割合を占めています。現在、1ヶ月に40～50件の御相談依頼をいただいております。また、御自宅での療養をお手伝いさせていただいている患者様からのお問い合わせや、退院前に病院で行われる連携会議に出席することもあり、状況によっては新規患者様の御相談をいただいて、診療開始まで多少お待ちいただくことがございます。新宿・銀座両ヒロクリニックの相談窓口として、患者様・御家族様が安心して療養できるよう円滑な訪問診療の開始を目指したいと考えておりますのであらかじめ御了承いただきますようお願いいたします。



MSW 唐木 香子

その他

“秋の温泉ツアー” 患者様と一緒に楽しんできました！！

昨年の10月7,8日の2日間,1泊2日の伊豆長岡温泉へバスツアーに行ってきました。参加メンバーは患者さんとその家族・介護者11名、そして英院長とクリニックのスタッフ他3名の全15名。旅にでた経験を持つ患者さんは、8年ぶり12年ぶりといった、療養されてからほとんど外出も控えてこられた方ばかりです。

その方々が、富士サファリパークでは放たれたライオンやトラに歓声を上げ、芳しい洋ランの咲き乱れる花園を車椅子で回遊しておられました。

圧巻は伊豆長岡温泉でのお風呂。“さんすけ” 姿の英院長の介添えで露天風呂付の貸切風呂に・・・それはそれは楽しんで入っていただきました。

診療スタッフ うすい まさひこ
臼井 正彦



アクセス紹介

医療法人社団 三育会

新宿ヒロクリニック

〒160-0023

東京都新宿区西新宿3-3-11

杉本ビル3F

TEL:03-5909-1220(在宅・在宅医療相談室)

TEL:03-5909-1231(外来)

FAX:03-5909-1233



- JR線「新宿駅」南口……………徒歩7分
- 地下鉄大江戸線「都庁前駅」……………徒歩5分

医療法人社団 三育会

銀座ヒロクリニック

〒104-0045

東京都中央区築地2-7-12

山京ビル3F 308

TEL:03-5551-1220

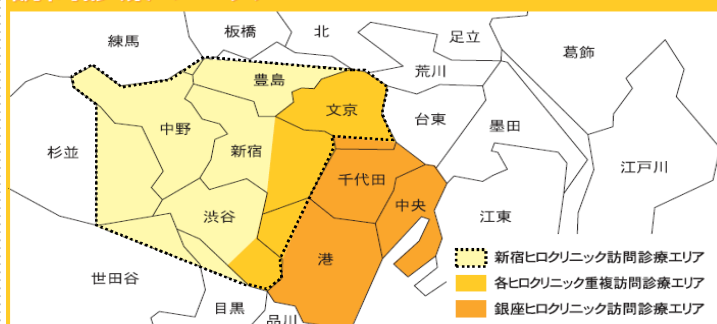
FAX:03-5551-1221



- 地下鉄有楽町線「新富町駅」……………徒歩2分
- 地下鉄日比谷線「築地駅」……………徒歩2分

訪問エリア

訪問診療のエリア



その他の地域についてもご相談ください。
対応可能な場合があります。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を兼ね、昨年お約束していた冬号の発行月を一ヶ月遅らせてみなさまのお手元にお届けさせて頂きました。今後も“かけはし”をとおして、ヒロクリニックの色々な出来事をみなさまにお伝えしていきますので、今年もどうぞよろしく願い致します。

次回(春号)は4月にみなさまのお手元にお届けの予定です。

ご意見・ご感想などありましたらお気軽にお寄せください。

冬号 vol.002 2009年1月発行
発行/医療法人社団 三育会
〒160-0023 新宿区西新宿3-3-11
編集責任者/芝